

一般社団法人日本医療薬学会
平成 29 年度第 1 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 29 年 3 月 2 日（木） 13 時 ～ 16 時 30 分

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：佐々木 均

副会頭：奥田 真弘、井関 健、山田 安彦

理 事：伊藤 清美、大谷 壽一、崔 吉道、武田 泰生、濱 敏弘、
峯村 純子、宮崎 長一郎、脇山 尚樹

監 事：大石 了三、安原 真人、山元 俊憲

年会長：大森 栄

陪席者

顧 問：五十嵐 邦彦、木平 健治

事務局：星 隆弘

欠席者

理 事：青山 隆夫、出石 啓治、川上 純一、佐藤 淳子、千堂 年昭、
松原 和夫、望月 真弓、山田 清文

顧 問：山本 信夫

四．議長：佐々木 均

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 12 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 平成 28 年度第 6 回定例理事会議事録の確認

議長より、昨年 12 月 27 日に開催された平成 28 年度第 6 回定例理事会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

2. 協議事項

(1) 第 9 回定時社員総会資料等の確認

1) 平成 28 年度事業報告(案)

山田副会頭より、第 9 回定時社員総会（3 月 24 日開催）の確認用資料を基に、平成 28 年度事業報告(案)が説明され、報告事項(案)を確認した。協議した結果、一部の表記に修正を加え、第 9 回定時社員総会の資料に組み入れることとなった。

2) 平成 28 年度決算報告(案)

議長より、第 9 回定時社員総会の確認用資料及び別冊資料(補足資料)を基に、平成 28 年度決算報告(案)が説明され、決算報告(案)を確認した。平成 28 年度以降、公益社団法人への移行時にも対応できるよう公益法人会計基準によって予算書を作成しているため、決算書も同基準に従って作成したこと、及び今回は移行期であるため平成 27 年度の決算額と正確に対比した正味財産増減計算書が作成できず、第 9 回定時社員総会に提示できないことが説明された。ただし、代議員には決算状況及び財務状況が適正であること説明するため、総会資料の別冊資料を用意し、公益法人会計基準に則った帳票に当てはめた平成 27 年度決算額、平成 28 年度予算額及び同年の決算額の 3 つの情報を対比した表を示して説明する方針が述べられた。また、平成 28 年度の決算状況は平成 27 年度と比較し極めて良好であったことより、その要因が確認された。協議した結果、平成 28 年度決算報告(案)は原案どおりとし、別冊資料中の一部の表記を修正して社員総会の資料に添付することとした。

3) 平成 28 年度監査報告

大石監事より、平成 28 年度の監査報告として、事業状況については、前年度の監事監査において検討事項として挙げられた薬学生を学術活動(学会活動)に参画させるための方策が講じられ、フレッシュヤーズ・カンファレンスの開催が企画されるなど、具体的な取り組みが進んでいることなどが評価すべき点として挙げられた。また、財務状況については、近年は良好な状況が続いているが、会期を 3 日間とする年会の実施について、引き続き収益が確保され続けられるのかを注視しながら、場合によっては必要な検討又は対応を講ずるべきという意見があった。また、今後の検討課題として、専門薬剤師制度について、拡充化を図ることも大切であるが、既存の薬物療法専門薬剤師認定制度の認定者の増加対策も重要であること、公益社団法人への移行に係る検討を前進させることなどの意見が述べられた。

(2) 平成 29・30 年度 推薦代議員候補者の選考

議長より、平成 29・30 年度推薦代議員候補者選考委員会において、代議員選出規定に基づきながら所属種別を考慮し推薦代議員候補者を選考したことが説明された。所属別に、病院所属者 7 名、大学所属者 4 名、保険薬局所属者 7 名、企業所属者 5 名、その他の所属 2 名の計 25 名の候補者と数名の補欠候補者のリストが提示され、協議した結果、原案どおりの当該推薦代議員候補者が了承され、今後、各候補者に説明の上、内諾を得て、第 9 回定時社員総会の協議議案として推薦代議員候補者の就任を諮ることとした。

(3) 平成 30、31 年度 役員候補者選挙スケジュール及び選挙公示(案)

事務局より、平成 30、31 年度 役員候補者選挙スケジュール及び選挙公示の両案に係る説明とともに意見の求めがあった。当該選挙公示案について、選挙権及び立

候補の資格要件の基準日に対する修正意見があり、当該事項を修正した上で、今後編成される役員候補者選挙管理委員会において最終的な確認を行い、同選挙の準備を進めることとした。また、事務局では、選挙公示を行う前に代議員の会員資格等を十分に確認し、選挙権及び被選挙権に漏れがないよう対応することとした。

(4) 医療事故調査・支援センターからの「アナフィラキシーに関連した死亡」の調査専門員の推薦依頼への対応

議長より、医療事故調査・支援センターでは、医療事故報告事例に係る分析及び再発防止策を検討するために「アナフィラキシーに関連した死亡」の専門分析部会を設置するため、本学会に同部会の調査専門員の推薦依頼があったことが説明された。協議した結果、医薬品情報に詳しい人材又は救急医療の分野で活躍している人材を選任し、内諾を得た上で依頼者に回答することとした。

(5) 事務局非常勤職員の雇用契約の延長

議長より、本学会事務局の非常勤職員と締結する雇用契約の延長に係る説明があった。事務局の非常勤職員の雇用に際し、就業規則上の原則的な取扱いとして、採用日から5年を超えない範囲で更新することとしている。ただし、人事委員会において雇用継続の有用性が高く評価された職員については、理事会の承認を経て雇用期間の定めのない雇用(雇用期間無期限、但し定年65歳まで)に移行できることになっている。これまで雇用契約を4回更新した非常勤職員A氏については、本来、平成29年12月末日をもって雇用契約期間が満了することとなるが、本学会の経理事務を遂行する上で重要な役割を担っているため、後者の規定を適用し、定年までの雇用に移行することが提議された。協議した結果、本件は了承された。なお、次回締結する雇用契約書には、定年に係る事項(年齢及び最終勤務日等)を明記することとした。

(6) 前年度会費の遡及納入への対応

山田副会頭より、前年度会費の遡及の嘆願2件について説明があり、協議した結果、全ての嘆願を了承することとなった。

(7) その他

議長より、国立国際医療研究センターの臨床研究センターの関係者から本学会への相談事項として、同センターでは、創薬や新たな治療法に繋げる臨床研究において、実践的な活動ができる薬剤師の養成を検討しており、その方法の1つとして当該目的に叶う人材を育成するためのレジデント制度の創設などを検討しているため、本学会に例えば年会や他のシンポジウム等の企画の中で、前述した薬剤師の意義やニーズ等を議論する場の提供に係る協力依頼があったことが説明された。協議した結果、当該議論の場の提供を、対応できる範囲内で協力することとした。

4. 報告事項

(1) 第 26 回年会（京都）実施報告

議長より、平成 29 年 9 月 17 日から 19 日の 3 日間にわたって開催された第 26 回年会の実施報告書の最終版として、同年会の概要、事業内容及び成果等が報告された。

(2) 第 27 回年会（千葉）準備状況報告

大森年会長より、本年 11 月 3 日から 5 日までの 3 日間にわたり千葉市・幕張メッセ他で開催する第 27 回年会の準備状況が報告された。現時点におけるプログラム編成の計画として、特別講演 6 題、教育講演 1 題、市民公開講座 1 題、国際シンポジウム 1 題、特別企画シンポジウム 3 題、病院薬局協議会・学術フォーラム 1 題等の組入れを計画していること。公募シンポジウムへの応募が 85 題あり、今後 50 数題に絞り込む予定であること、また一般演題の募集及び事前参加登録を 4 月 13 日より受付を開始することなどが報告された。また、本年会の日程表(案)を基に、主たる企画のスケジュールが説明された。なお、国際シンポジウムが行われる会場では、国際交流委員会からの要請に基づき、同シンポジウムの終了後、引き続き英語のみで発表が行われるシンポジウムの開催計画が示された。

本件に付随して、将来的には海外からの参加及び演題の登録を受け付けられる英語版の年会案内、演題及び参加登録のシステムの整備に係る意見や、例えば同一会場で 1 日を通して英語のみで発表を行う形態を採用することなど国際化に対応した年会の実施に係る意見があった。しかしながら、一部の理事より、従前どおりに多くの参加者に有益な日本語による企画を提供すべきではないかという意見もあった。

(3) 平成 29 年度 年間行事

事務局より、平成 29 年度の年間スケジュールとして、講習会等のイベント、総会及び理事会の開催時期(見込み)などが報告された。

(4) 講習会、セミナーの開催予定

1) 第 1 回医療薬学教育セミナー

伊藤理事より、本年 4 月 16 日(日)に東京大学医学部鉄門記念講堂(東京・文京区)にて開催する第 1 回医療薬学教育セミナーのプログラムが紹介された。

2) 第 1 回フレッシュャーズ・カンファランス

大谷理事より、本年 6 月 25 日(日)に慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス(東京・港区)にて開催する第 1 回フレッシュャーズ・カンファランスのプログラム(案)を基に、本カンファランスの実施の概要が報告された。

(5) 委員会活動報告

1) 平成 29 年度第 1 回広報委員会

武田理事より、本年 1 月 27 日に開催された平成 29 年度第 1 回広報委員会の議事概要として、本学会ホームページ(HP)のトップページを見やすく改訂するための検討及び英文版の HP の作成作業を進めていることなどが報告された。

2) 平成 29 年度第 1 回専門薬剤師育成委員会

奥田副会頭より、本年 2 月 17 日に開催された平成 29 年度第 1 回専門薬剤師育成委員会の議事概要として、これまで協議された保険薬局薬剤師及び大学教員を対象とする認定制度に係る各 WG での検討事項をもとに、同 WG の今後の議論の進め方を協議したこと、また薬物療法専門薬剤師とそのサブスペシャリティ資格の在り方や、既存の認定薬剤師制度、がん専門薬剤師制度との関係性についても協議したことが報告された。

(6) 後援依頼 (3 件)

議長より、次の 3 件の後援依頼を了承したことが報告された。

- 1) 「第 6 回日本薬剤師レジデントフォーラム」
- 2) 「第 14 回日本癌治療学会アップデート教育コース」
- 3) 「医療薬学フォーラム 2017/第 25 回クリニカルファーマシーシンポジウム」

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。